

■ stavek s povedkom v neformalnem slogu + わけだ／わけです

NB: N だ→N な+わけ npr. 学生なわけです Ana だ→AN な+わけ npr. 上手なわけです

■ A. 「～わけだ」 izraža samoumevno posledico ali zaključek, do katerega pride vsak.

【例文 1】 山田さんは今年 19 歳だから、来年成人なわけだ。

【例文 2】 A: これ、少し傷（きず praska）がついていますね。

B: それで、安いわけだ。

【例文 3】 A: 田中さんは小さいときにアメリカに住んでいたんですよ。

B: それで、英語が上手なわけですね。

【例文 4】 石油（せきゆ petrolej）の値段（ねだん）が上がっている。それで、ガソリンの値段も上がっているわけだ。

【例文 5】 私は飛行機に乗るのが怖くて（こわくて）嫌（いや）です。だから、海外旅行をしたことが一度もないわけです。

Take povedi se pogosto začnejo z 「ということは」

例 A: 田中さん、病気だそうですね。

B: ということは、明日の旅行には行けないかもしれないわけですね。

B. 「～わけだ」 "z drugimi besedami povedano..." povzema vsebino prejšnje povedi

【例文 6】 彼女は私の姉の子どもだ。つまり、私にとっては、めい(nečakinja)なわけだ。

【例文 7】 妹はペットの猫が死んでから元気がなくなった。元気がなくなるぐらい悲しい（かなしい žalosten）わけである。

【例文 8】 あそこはいつもゴミが一つも落ちていない。つまり、非常(ひじょう izredno)にきれいなわけである。

【例文 9】 彼は試験前なのに遊んでばかりいる。要（よう）するに(z drugimi besedami / če povzamemo)、全く勉強していないわけだ。

【例文 10】 先生: 解答用紙（かいとうようし izpitna pola）に名前を書かないと 0 点になるので、気をつけてください。

学生: つまり、不合格（ふごうかく negativni rezultat）になるというわけですか。

先生: ええ、そのとおりです。

「わけだ」 v tej rabi se lahko zamenja z 「のだ」

例 彼女は私の姉の子どもだ。つまり、私にとっては、めいなのだ。

C. 「X。Yわけだ」 izraža to, da je Y posledica Xa.

Isto vsebino bi lahko izrazili tudi s strukturo 「Yだから、X」

【例文 16】 今年はあまり雪が降らなかった。いつもより暖かい冬だったわけだ。

【例文 17】 A: 田中さんの息子さん、4月に東京へ行くそうよ。

B: 東京の大学に進学することにしたわけね。

【例文 18】 彼はたばこをやめることにしたそうだ。健康に気をつけるようになったわけだ。

E. 「～わけだ」 v odgovoru izraža to, da smo končno razumeli razlog, ki nam prej ni bil jasen.

【例文 19】 A: このボタンではなく、このとなりのボタンを押すんですよ。

B: あ、ボタンを間違えていたんですね。どおりで動かないわけですね。

【例文 20】 A: 山田さん、元気がありませんね。

B: 飼って（かつて）いる猫がいなくなってしまったそうですよ。

A: それで、元気がないわけですね。早く見つかるといいですね。

【例文 21】 A: あれっ？テレビが見つからない。

B: あ、コンセントが抜けて（ぬけて）いるよ。

A: 本当だ。見つからないわけだね。

● 引用の「～という」を使った表現「～というわけだ」を使うこともある。

例 彼女は私の姉の子どもだ。つまり、私にとっては、めいであるというわけだ。

● 「わけ」は理由という意味で使われる場合もある。

例 1 どういうわけで、そんなことをしたのですか。

2 どうして遅刻（ちこく）したのか、わけを言いなさい。

【povzeto po: <https://minnanokyozai.jp/kyozai/material/BMA00039/ja/render.do>】